

地域保健福祉活動の媒体となる市民向け浜松市版 保健福祉新聞の創刊に向けて

大場義貴^{*1)}、加藤寛盛²⁾、小幡峯司³⁾、峰野和仁⁴⁾、中谷高久⁵⁾、高橋久美子⁶⁾

¹⁾聖隷クリストファー大学、²⁾NPO 法人遠州精神保健福祉をすすめる市民の会、
³⁾(株)メディアス、⁴⁾静岡県作業所連合会・わ、
⁵⁾浜松市社会福祉協議会、⁶⁾浜松市手をつなぐ育成会、

事業の概要

愛知県豊川市の障害者就労支援事業所職員との懇談で、豊川市では任意団体「豊川市障害者しごとネット」が、障害や福祉に関する情報を中心にしながらも、地域の様々な情報も盛り込んだ新聞(ぴゅあライフ)を発行し、市内3.7万部を配布しているとの情報を得た。

そのことを題材として、浜松で実現可能な仕組みについて2009年度は、地域貢献研究事業で「地域保健福祉活動の媒体となる市民向け浜松市版地域保健福祉新聞の研究」として取り組んだ。そこから、市民にも親しみやすい媒体を作ることによって保健福祉に関する理解啓発、早期対応等につながることで、波及効果として、市民の中からの協力者や支援者の発掘や、関係機関同士のネットワークの構築にも寄与するなど、地域貢献という観点からも、様々な部分で大きく広がる可能性があることを見出した。また、保健福祉の行政、関係機関と一般市民、企業にサンプル版を送付しアンケートを実施した。その結果、行政や関係機関からは市民への情報発信のツールとしての期待の大きさが伺えた。また、作成に関して記事の掲載や配布など様々な協力を得られる可能性が伺えた。また市民、企業からは配布についての協力や作成についての助言、情報提供などについての協力が可能との回答を得ることが出来た。その結果を踏まえ、2011年度初旬に創刊号を発行することを目標とすることになった。

しかし、実際の発行やその継続性になると、運営組織や発行のための財源確保など様々な課題が浮かび上がった。そこで、2010年度は新聞の発行による効果や持続性、継続性などについて検討し、創刊号発行へ向けた準備をすることとなった。

目的

- ①前年度実施したアンケートの結果をもとに、創刊号の内容や配布の方法等について再検討し、創刊号の発行に向けた準備を行う。
- ②保健福祉新聞の発行について、次年度からの継続的な発行となるような組織作り、運営の方法、資金の確保の方法について検討する。

実施方法

- (1) 創刊号作成に向けた意見交換(研究会)
研究会メンバーが、創刊号に向けて内容や持続的な運営について検討する。

- 6月 第1回研究会
年間計画、サンプル版アンケート
についてのまとめ
- 7月 第2回研究会
次年度からの研究会の運営、スケ
ジュール確認
- 9月 第3回研究会
次年度からの研究会組織や運営、
スケジュール確認、紙面の検討
- 10月 第4回研究会
助成事業の結果及び情報、新聞の題名・趣旨・内容や記事依頼の検討
- 12月 第5回研究会
助成事業の結果及び情報、作成の状況確認
- 3月 第6回研究会
作成の状況確認、次年度に向けた課題と事業の展望について



- (2) 研究会での協議を経て、次年度に保健福祉新聞の創刊号を発行し、関係機関、行政、一般市民等に配布する。

2010年度までの成果（地域との連携の成果）

(1) 関係機関との意見交換（研究会）

計7回の研究会を開催した。その中で、オブザーバーとして浜松医科大学付属病院精神神経科の豊田志保氏、NPO法人遠州精神保健福祉をすすめる市民の会の神谷礼子氏を迎え、保健福祉新聞の継続的な発行を可能にするための組織や運営、創刊号に向けた紙面の再検討、記事依頼、配布先の検討等を行った。

次年度以降の組織体制については、本研究会構成員（オブザーバーを含む）が聖隷クリストファー大学社会福祉学会員となることで、学会内の研究会として組織を継続させていくこととなった。

発行のための資金に関しては、研究費以外に市や財団法人等の助成事業への申請を試みたが、結果はいずれも不採択に終わった。しかしこの新聞が大学の広報としての役割も持つということから学内からの資金協力を得ることが出来た。また趣旨や目的が評価され、創刊号に対しては企業からの寄付を得ることとなった。

(2) 浜松市版保健福祉新聞「らしく浜松」創刊の準備

2010年度は次年度以降の組織体制づくりや運営のための資金確保についての協議と、保健福祉新聞の創刊号までの準備となった。病気や障害があっても、自分らしく生きるための手助けになればという願いから、保健福祉新聞の名称は「らしく浜松」に決まった。文字の組み合わせを変えると、「くらし」にもなり、生活や生きることを大切にしたいという思いも重なった名称となった。記事内容は福祉を中心にしながらも、その周辺領域を織り交ぜた構成とし、各方面に記事作成の依頼を行った。

浜松市版保健福祉新聞「らしく浜松」創刊後の状況

(1) 浜松市版保健福祉新聞「らしく浜松」創刊

平成23年6月中旬に創刊号を1万5千部発行した。サイズはタブロイド版、4ページとし、福祉、健康、食育、環境、趣味、コラム、大学情報という構成とした。

(2) 「らしく浜松」配布

各種講演会やイベント時での配布、研究会構成員による配布等の他、以下の機関に配布や設置を行った。

①行政機関（21箇所）

障害福祉課、保健所、精神保健福祉センター、各区社会福祉課など

②病院、診療所（40か所）

市内の精神科病院、診療所など

③障害福祉サービス事業所

障害者相談支援事業所、障害者自立支援法指定事業所など156箇所

④在宅介護サービス事業所（149箇所）

地域包括支援センター、ホームヘルプ事業所、訪問看護ステーションなど

⑤その他団体

手をつなぐ育成会、浜松東ライオンズクラブ、民生委員

⑥その他民間企業、公共施設等

浜名湖ガーデンパーク、浜松城、浜松まつり会館、サーラスポーツ
アズマ工業、遠鉄観光開発、浜松信用金庫、トーワフードサービス

※その他、複数企業と配布に向けて交渉中



らしく浜松 創刊号



今後の課題と展望

今後、最も重要なのは継続的な発行のための運営資金確保である。2011年度は様々な事業からの費用捻出を組み合わせることで3回の発行が可能となる目処が立っているが、その後の発行については現時点では明確になっていない。今後は、各団体や企業、個人等から広告や協賛を得るよう営業努力が必要となっている。そのためには、まずは2011年度内の早い段階で広い範囲に新聞を設置し、多くの人の目に触れ、関心を持ってもらえるよう努め

ていく。また、様々な団体や企業、財団法人等の助成事業に応募し、資金確保ができるよう努めていく。

本研究は2011年度からは聖隷クリストファー大学社会福祉学会内の組織として継続し今後も新聞の発行のための協議を続けていく。

学会発表、論文発表、情報公開の予定

- ①2011年度聖隷クリストファー大学社会福祉学会（2012年2月）にて発表予定。
- ②メディアへの広報として、静岡新聞、中日新聞、K-MIX、FMハローなども予定している。



2011年8月25日中日新聞朝刊にて紹介された